

令和8年度 学校経営計画

杉並区立三谷小学校

校長 入倉 勝

☆杉並区教育ビジョン2022

【Ⅰ 私たちが大切にしたい教育】みんなの幸せを創る杉並の教育

◇学び合い、信頼をつくり、共に生きる

◇ちがいを認め合い、自分らしく生きる

◇誰もが社会の創り手として生きる

【Ⅱ 一人ひとりが教育の当事者として心がける視点】

1 子どもの思いを尊重する

2 ちがいを受け入れる

3 対話を大切にする

4 学びの成果を贈り合う

5 社会を創る当事者として考える

Ⅰ 学校教育目標

地域と共に育つ学校づくりを推進するため、家庭や地域と連携した教育活動を展開し、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。

「地域ではぐくみ、世界へ巣立つ三谷の子」

ち 知識を広げ、知恵を深める

い いのちをみつめ、心をはぐくむ

き 気力を養い、体をきたえる

現在、教育を取り巻く環境は大きく変化しており、人々の価値観や生活は多様化し、家族の形や働き方は変化してきている。このような状況下、杉並区では「杉並区教育ビジョン2022」を制定し、私たちが大切にしていける教育として「みんなのしあわせを創る杉並の教育」が掲げられた。みんなのしあわせを創るためには、一人ひとりが当事者として共に認め合いながら、協力して社会を創り担い、そしてそれを支えるために教育が大切な役割を果たしていくとしている。

本校では、学校教育目標のもと子供の声に耳を傾け、自己の命を大切にするとともに他者の命を大切にし、常に自主的・創造的で、集団及び地域社会の一員としての自覚をもって社会に関わりながら、「自分たちで自分たちの学校生活を創っていく」ことができる児童の育成を目指していく。

2 目指す児童像

人間性豊かな たくましい児童（学校・友達が好きで自己肯定感が高い児童）

◎か かんがえる子・・・自らよく考えよく学ぶ

が がんばる子・・・困難なことにもあきらめず挑戦する

や やさしい子・・・思いやりの気持ちをもつ

け けんこうな子・・・明るく心も体も元気

3 目指す教師像・教職員像

- (1) 子どもの思いや気持ちに寄り添った指導ができる心温かな教職員。
- (2) 教育公務員としての自覚をもち、保護者や地域の方々から信頼される教職員。
- (3) 心と体の健康を保ち、明るく笑顔あふれる教職員。
- (4) 常に学び続け、向上心をもち続ける教職員。（日々の授業が何より大切！）

4 学校経営の基本方針

- (1) 人権教育とキャリア教育を基盤として「自律（立）」、「協働」、「創造」の視点から豊かな心の育成、確かな学力の定着、体力の育成を図る。

「自律（立）」

生活の基礎・基本としてのルールやマナーなどの社会性を身に付ける。学ぶことの楽しさを知り、学びかたを習得させることによって、生涯にわたって、自ら学んでいくことのできる主体性を育成する。

「協働」

様々な人（もの・こと）とのかかわりを持ち、考えを出し合うことで、多様な考えに触れ、自分の考えと比較、統合しよりよい答えをつくることができるようになる。この活動を通して人とかわることの大切さを実感させ、協働性を育成する。

「創造」

自分の特性を知り、その特性を活かして社会に参画する資質や能力を育成し、これまでに身に付けた力を生かし「新たな考えを生み出す」創造できる能力を育成する。

- (2) 地域運営学校として、地域との協働、そして家庭との連携・協力を行い信頼される学校づくりを行うと共に、3S（スマイル・スピーディー・セーフティ）を心がけ、安心・安全な学校づくりを行う。

5 基本方針の具体化

- (1) 確かな学力の定着【学習指導】

① わかる授業

- ・すべての学習において教師は「めあて」を明示し、見通し・振り返りのある学習（何ができるようになったか自覚できる授業づくり）を展開する。
- ・ユニバーサルデザインの視点に立ち、学習環境を整える。（整理整頓された教室、丁寧な字で書かれたわかりやすい板書、すっきりとした掲示物）
- ・「発問」「教材」「子供の見取り」を的確に行い、主体的な学びにつながる授業づくりを行う。
（「発問」の吟味（一言一句まで）「教材」の効果的活用）

② 主体的・対話的で深い学び

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行う。（「学習者主体」を意識した授業づくり 校内研究を中心とした日々の授業改善）
- ・自分なりの課題（疑問）をもち、その課題を教師の適切な指導のもと、個人そして学び合いにより探求・解決していく授業づくりを行う。

- ・調べ学習での図書室、本の有効活用を進めていく。学校司書との連携強化。
- ・読書を推進することで、豊かな表現力や想像力を育む。
- ・最後まで粘り強く考えること、違う視点から解決策を考えようとするを重視する。

③ ICT 機器の活用

- ・「個別最適な学び」（学びの個別化・探求化・協働化）に向けて、一人一台のタブレット端末を積極的かつ効果的に活用する。

（タブレットを一斉に使うだけでなく、児童が選択して使う段階をめざす）

④ 多様な学び

- ・外部講師による学習を設定し、専門的な知識・技能に触れる機会を設ける。
- ・ALT・JTEとの連携を密にした外国語科、外国語活動の授業を展開する。
- ・思考ツールを活用し、考えを可視化することで思考を深めていく。

（２）豊かな人間性の育成【生活指導・特別活動】

①礼儀や生活規律の指導の徹底

- ・学校、保護者、地域が連携して「三谷スタンダード」に基づいた規範意識を、すべての児童に身に付けさせるよう努める。定着度の確認と新たな手立て。
- ・「凡事徹底」挨拶の励行。時間内行動。集合時には話をしない。

②組織的対応により生活指導上の問題（トラブル・いじめ・不登校等）を迅速に解決する

- ・いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・早期対応・早期解決に向けて全教職員で丸となって取り組む。
- ・不登校傾向の児童に対しては教育相談校内委員会を開き「さんやステップアップ教室」を活用し、全ての教職員、関係諸機関と連携して、一人ひとりに応じた指導や支援を進める。

③特別活動の充実

- ・特別活動では、集団活動（たてわり班、クラブ、委員会、学校行事）を通して、集団と自己の課題を見出し、その解決のためによりよい人間関係を構築しようとする態度を育成する。
- ・児童が様々な人との関わりの中で、自分のよさに気づき、自己実現に向けて努力しようとする態度の育成に努める。（キャリアパスポートの活用）
- ・学級活動（１）の確実な実施（年間１０回程度）で合意形成の大切さを実感させる。

（３）健やかでたくましい心身の育成【生活指導・特別活動・その他】

①安全や健康を考えた学校生活

- ・毎月の安全指導を核とした日々の安全教育等を通して、危険を回避するための知識や実践力を育む。
- ・「防災教育デー」を設定し、体験的な学習を進め、自助・共助への意識を育む。
- ・年間を通して、長縄、短縄、持久走等を実施し、体力の保持増進を図る。

②心の教育

- ・「道徳の時間」の指導を工夫し、道徳教育を推進して道徳的实践力を高める。
問題解決的な道徳・体験的な道徳の実践
- ・思いやりの心・・・特別活動による自己肯定感の向上
- ・自然や環境への思い・・・持続可能な社会づくりへの取り組み 農園の活用
地域施設（農芸高校・工科高校等）との連携
- ・いのちの教育月間・・・いのちの授業（生命尊重）

③特別支援教育

- ・特別支援教育コーディネーターを中心に組織的な支援を進め、校内支援委員会での情報交換を月1回以上行う。
- ・SCや巡回心理士等との連携を進め、アセスメント力の強化を行っていく。
- ・特別支援教室拠点校としての強みを生かし、全ての児童を全教職員で指導・支援していく体制を整える。

(4) 信頼される学校づくり【学校運営】

①幼保小中連携

- ・年2回の小中連携研修会を計画的に実施していく。
- ・スタートカリキュラムや幼保小連携全体計画に基づき、連携園との交流を計画的に実施し、きれめのない教育を進める。

②地域特性・学校の強みを生かした教育

- ・地域運営学校（コミュニティ・スクール）として、家庭・学校・地域のつながりを大切にして、子供たちの育ちを共に支える取り組みを推進する。（CS校としての歴史）
- ・「さんこら」（学校支援本部・地域共生本部）のサポートを最大限に生かして、地域ぐるみで教育活動の充実に努める。
- ・総合的な学習の時間では、「地域とのつながり・食育・自然環境」を核とした探究的な学習を行う。自然とかかわる体験を多くすることで感性豊かな児童を育てるとともに、環境を守るための素地を養う。また学校支援・地域共生本部と連携し、地域人材や地域の施設を活用した授業を展開する。
- ・近隣施設や学校と連携した教育活動を進める。（杉並工科高校、農芸高校、東京女子大学、ワセダクラブ、上井草スポーツセンター等）

③個人情報適切に管理し、流失や紛失がないようにする。

- ・校務用タブレットの使用基準の順守
- ・公簿や児童資料（紙）等の個人情報の徹底した管理（机上の整理整頓）

④学校予算により購入した教材や教具の適切な活用。

- ・無駄のない計画と執行、会計管理の徹底（会計簿の定期的な点検）
- ・今年度は70周年の節目の年であるため、周年関係に関わる予算に重点を置く

⑤教育公務員としての自覚

- ・サービスの厳正
- ・公務に携わるモラル（言動・あいさつ等）

学校運営の基本的な考え【学校運営】

- ①校務分掌における自己の役割及び責任を明確にし、校務を適切かつ確実に遂行する。
- ②企画会は起案についての調整や検討を行い、主幹会は進捗状況の把握を行う。
- ③「すべての子どもたちを全教職員で見ていくこと」を実現していく。
 - ・全教員、週1時間の「校内巡回の時間」を設ける。
 - ・積極的に学年内での交換授業を。
 - ・副担任制の実施
- ④「ほうれんそう」を忘れずに。何事も一人で抱えないこと！風通しの良い職場づくりに努め、教職員が元気でいられることを大事にする。
- ⑤三谷小の強み（素直な子どもたち、地域が協力的なところ、教職員が明るいところ等）を最大限に生かし、教職員が一致団結してより良い学校づくりをおこなっていく。
- ⑥週案は単元名、目標（活動）、計画時数（新学習指導要領に向けた準備）を必ず記載し、実施授業時数を適切に管理する。安全面に配慮が必要な教科、単元は、必ず安全面での配慮事項を記入する。